

## "アラビア文化"研究の歴史

(1)

&lt;1854年&gt;

1854年：マチエーレ・アマリ：『Storia dei Musulmani di Sicilia』

この著者は、祖国を追うて10年以上は亡命生活を送った（10年～1854年）。

彼はアラビア人 Ibn Zafar の Sulwān al-mulā' の翻訳、及び Ibn Hawqal 及び Ibn Jubayr の著述を翻訳して、既にオリエント学の第一歩を踏み出している。これは大著の第一巻（1101年）である。

著者は Guerra del Vespri の闘争の情勢を注視する傍ら、Reinaud の著述を参考して、アラビア語の歴史を227回（12世紀）に亘る文章で示す。

アラビア文化研究の生涯の圖下と著者  
 あるところあり、~~アラビア文化研究の圖~~<sup>アラビア文化研究の圖 Amari</sup>  
 の記(1889年)は「アラビア文化の代表(アラビア文化の代表 Amari)  
 から来る。その内容の研究は進行せずしてか  
 りアーレーリーの走るところはす

きな。

《Amari以前》

Amariの作品以前の段階は  
 いわばこの研究の歴史時代と呼べる程  
 ようが、これがさうと半世紀間程の間に  
 それが不思議な代であり、この研究は  
 地域的な知識人の手でまとめられて  
 進む。専門家は全くないは殆ん  
 ど専門家ではない。たゞアラビア語の  
 ヨーロッパオランダの学者、生々の流れ  
 に消されてしまふ、乙の(アラビア Amari)

以前の三千四百のアラビア書籍の簡便な収集

が自身によつて『Storia dei Musulmani di Sicilia』

の序文で証明する。その序文

1700年代後半に止り、今後はアラビア語の書籍は

ほとんどアラビア語の書籍は

カルターニアラビア語の外交文書と所蔵は 1995 年  
~~著者~~ → マリエ芸術上の後藤とも  
 2003 年。ヤカーリーの作品は、シナレゴフスキ。三ヶ月 = a 言文の作品は、シナレゴフスキ。三ヶ月  
 "アラビスクト連 <sup>アラビスクト連 12 月</sup> ~~アラビスクト連~~ 研究活動を引き受けた。この功績は  
 あるべき。それがアラビスクト連は正しく、  
 アラビア語の <sup>アラビア語</sup> ~~アラビア語~~ テレッタント連と呼ばれ  
 ドカルカスス <sup>1800 年代初頭</sup> Monso, Mortillaro  
 Caruso 連がそれである。これがテレッタ  
 ント連の <sup>筆頭に位置する人</sup> 一 <sup>度</sup> 属し、且つ年代順に  
 重要な人物 <sup>筆頭に位置する人</sup> であるのは、  
 Rosario Gregorio (1753-1809) であるべき。  
 彼は Amari の <sup>1790</sup> 年に出した Rerum arabicarum quae ad Siciliam  
 spectant ampla collectio ~~は豊富で~~ は豊富で <sup>は豊富で</sup>  
~~スケルムは豊富で~~ <sup>は豊富で</sup> Amari の Biblioteca  
 arabo-sicula は ~~スケルム~~ 豊富で、豊富なスケルム  
 と別々に <sup>スケルム</sup> は、アラビア語の墓碑館に開かれた  
 研究 <sup>スケルム</sup> Mommesen の Corpus は <sup>スケルム</sup> と同様

( 4 )  
 ナウトアマリ。  
 <Amari> < Michele Amari (1806 - 1889) >  
 + = Amari の Storia dei Musulmani di Sicilia は、=  
 おのの貢献を輩達し、その完全には、2聖回  
 乃是才能と、彼が選出し、集成し、推敲して  
 あり下下の資料とに於て闇の中にも尋りま  
 す。10月一日の10月都市図書館で  
 考察のマニスクリプトに接し得たこと  
 が、彼の執筆を浅練し、批判力を鋭く、語言  
 の伝統を可能にしたのであるが、これは一  
 わざ亡命の苦しき経験と、そのうちは幸運  
 亡命生活がいかにいたとあるならば、Storia  
 dei Musulmani di Sicilia が Biblioteca arabo-sicula  
 を始めとする Amari の ~~アラブ~~ <sup>アラブ</sup> 唐間の成果  
 (例外なくアラブ・ニカラア史、アラブ・地  
 中海史に焦点をあててゐる) は決  
 して生れながらいたのである。1854年 9 Storia  
 の第一巻に続いて 1868 年 10 月 1 日付で二巻が出、次に  
 1868 年と 1872 年に各三巻、第一部 = 部  
 分に出 ~~アラブ~~ アラブ・ルマンの文明・文化  
 の叙述とも、この大なる構想を開じてしま

。又同時に A. 1871 年にライポツィヒで Biblioteca (三部) が  
 二丸に分けて " " で Storia が書かれたりと = 3 本  
 で、そのうちの 1 本は宣傳集 (アラビア語) のテキストで出され  
 た。35 年の年にはその補足版が三冊が出来た  
 もの = 3 本。補足の合計で直角上に 3 本 +  
 3 本 = 6 本。補足分 (87 年) を除  
 くと、それら全 2 本 + 1 本 = 3 本 = Amari は  
 '80 年から '81 年にかけて出たもの = 3 本。  
 大きな著者 = ~~アラビア語~~ 大著 = の 3 本 + 3 本 = 6 本  
 位置するものは Epigrafe arabisch di Sicilia (三部  
 で分かれ 1875 年から '85 年にかけて本 + 本  
 で) であると云われればよい。これは彼の  
 死後 1882 年に未完の手稿 = フルコ = 11 本 +  
 九本 = 計 20 本 = 20 本。即ち、既に嘗て記述した  
 三本 + 三本 = 6 本 + 20 本 = 26 本 = 26 本  
 である。この 26 本は半世紀以上前に以下  
 で述べた如きの如きで、そのうちの 26 本 =

ヒは言ふとまくな" (政治論文とも含  
む) Amari の完全な著作リストは Centenario

della nascita di Michele Amari; Scritti di filologia e storia  
araba, ecc. Palermo 1910. I. pp. XLV-CVIII = ~~収録~~ + ~~著者~~

222)。しかし乍ら一層嘆可べきは、彼  
の憂國の士として、策士として、又政治家や  
諸研究機関のオーガナイザーハとして、或いは文  
上院議員や關係者としてすなから可激し、実務  
的活動を行ひ、下人である ~~事務官~~ にててあ  
る。Amari の生涯はひつまびりして静謐なも  
のとは程遠か、下り、不幸せき、運命の  
ほほえみを失つてゐる。それは

1800 年代の ~~特異~~ であるが、今のかじ知れない。

『Amari の作品』とその評価

その最初の出現から今日に至るまでの歴史  
の年月から見て、Amari の丁史学上の著作は、  
年間 ~~1800-1850~~ Amari の丁史学上の著作は、

この間で、生命を保つ続けていた。Amari

の Storia とほぼ同じ頃書かれ、Dozy の Histoire

des Musulmans d'Espagne の資料の一元化ストリオ

グラフィカルな立場をもつていた。今日で

は Lévi-Provençal の作品は 5 つ、2 代えられ

(7)

21. 8. 10 曜五、アマリの「太公子作品」

18. 今日新しい書きが主なものは不可能である。その資料はよりよく整備され

得るべく、それは新正反対資料の問題である。また「院に用」の「子登録」  
の全文は解説によると考えられる（スペイン  
アラビア文明）今世紀に生じた資料  
の頃大ヒル比較は（左）= 1-12）。左 =

アマリは他の作品と可能と限り修正・補充  
する所に出でていて、錦宮は

1-12と2-12である。だがこの後、  
意圖は他のところ50年近く前にされた

（左）  
青★帆下書道者 Carlo Alfonso

Nallino は Nallino はの企画にて、

既にアマリはFと準備しており、1-12

全面的に採用し、Nallino 自身の所蔵は（アマリ

入原文の修正者であるけれども、これは文部省

の手による改正である。Eが「常に註記され  
る形でのみ挿入した。アマリ自身が

修正を1-12と2-12の個所を除いて Nallino

は原文に日本語訳行がある。それは、Nallino が序文で述べる「序文」は、車に原作の個性の文体を保たせんために改めたものである。原作そのものが、その主要な骨組に沿って、更に大部分の細部において、全く事實上修正と再構成を必要とする所が、それには他ならぬ「(アマリ) M. Amari, Storia dei Musulmani di Sicilia 2nd ed. a cura di C.A. Nallino, Catania 1933-39. # = 版作成のため Nallino によって下されたもの + 一巻の序言」、序言は pp. XIX-XXIV に譯して並べられてゐる。たゞ Nallino がこの著書の主張を立てた範囲は限られる。すなはち、中世初期に於けるギリシア・ラテン文化下の南イタリアの社会的文化的生活、特に宗教的生活であるが、大部分は現存する今日のものである。このことは最も Nallino 自身によつてほのかにされたものであるが、Ernesto Buonaiuti は「南イタリアの歴史者によつて確認された」。Storia の多くは部分的な歴史化の確認に

もと下へて、オーラニアの中世初期の二千四百  
 年イタリアキリスト教社会オーラニアの  
~~Amari~~ Amari 史家 の 基本的態度 から より 清々  
 批判。 Falco は おこなわれた時代から見て  
 G. Falco; La Critica (38) 1940 年 358<sup>10</sup> - 359<sup>11</sup> 以下。 ほ  
 ど = これは Albori d'Eupa, Roma 1947, pp. 486-512 に 有  
 関するところ)。 该批判は Amari の 基本的  
 姿勢の弱い実験結果は おもに 読むべきもの  
~~Amari~~  
 で。 その弱い実験は 三分の 教義 a 1700 年代の半  
 程度の間、 その政治的影響は イタリア統一への政治  
 情勢によつて 説明し得るところである。 たゞ その  
 批判は ひづれの ヒューマニテイシズム による全  
 開くべき鏡子 (中世のキリスト教の開拓  
 あるところを除いて。 後の研究が ~~実質的~~ 修正を要す  
 べきところ) が 行はれて、 伝記は 一つも残さない  
 歷史から 経済・社会・文化史に及ぶる開拓の方  
 向に否定する ~~ことは~~ ではない。 しかし  
 < Storia dei Musulmani di Sicilia は 1800 年代  
 イタリアの古典的 地位を しめすものが あり

且つ又イタリア文學の古史記も又その歴史  
の評価、しかも極めて肯定的な評価である。B.  
Amariの評価は、いかにも歴史家としての立場から、  
その評価は、いかにも歴史家としての立場から、

Croce, Storia della storiografia italiana nel secolo XIX, Bari,  
1921, II, 28-34 にみられる。しかし Croce は

Amariの大著書は、「Vesproの歴史」に關する問題  
の大きな精神的背景へ及ぼす影響、道徳的  
政治的直接の関心が弱まることなく、  
政治的直接の関心が弱まることなく、

弱められる。〈Amariの評價と問題〉

Amariの評價の偉大さの背景は、むしろ語  
彙的精緻さ確実さに欠けて「下美」である。

アラビア語 = モモル Nallino やリカケ  
アラビア語 = モモル Nallino やリカケ  
アラビア語 = モモル Nallino やリカケ

Amari時代はアラビア語の研究が始まる頃には  
アラビア語の研究が始まる頃にはアラビア語  
を語る独立性が強められ、その目的が文獻に精  
かれて重要な歴史的、地理学的研究力  
を集中していき、その結果として、その  
ことの意味でアラビア語の出来事は、その  
ことの意味でアラビア語の出来事は、その  
ことの意味でアラビア語の出来事は、その

詩に聞け。力が及ばずか。た。 ~~つかひしるべか~~  
 → ~~それゆき~~ いたれども。 ~~ほし~~ 3 = 4 ハア:

約3アラビア文明の解説のためにアラビア語には  
 じゆす資料を駆使しようとしたので、しばしばそ  
 の不得意な分野では筆を取り下ろさなければなら  
 なかつた。たゞ Biblioteca はまだアラビア語  
 の詩や韻文のテキストは、その解説に約2年  
 もり完全な出来とは“えむ”。Amari (1912)  
 『愚見』、そのうえでアラビア語が失なわれた祖  
 國への鄉愁と悲感をもつて書きとつた（或  
 “は是れ非モ聞きとぞ」といふ）アラビア  
 ナリアの偉大な詩人 Ibn Hamdi's の選集の  
 そのうちの1つ完全とは“えむ”。Biblioteca は

まだそれ他のアラビア詩人達  
 の選集はまだ ~~大部分が~~ <sup>大部分が al-Isfahani (Kharidat al-Sabk)</sup> 同様に = か言ひま  
 せぬ。その <sup>ほとんどの</sup> 韵文の読み  
 や解説の面では、はるかに上回る。Amari は自分の部分、詩文と解  
 釈する。Amari は自分の部分、詩文と解  
 釈する。Amari は自分の部分、詩文と解  
 釈する。

Fleischer  
De Dozy や Fleischer, De Goeje や  
Nallino や比較して De Goeje 上の説をもつてゐる

1800 年代を通じてイタリアの他、  
如何なるアラビストよりも、] = aアラゴンニ

ナリアの歴史は語学から水準に沿ってもほぼ

かにすぐれてゐる(原註: 著者)。念

題にはあらはれ、ナリアにて例の博識な学者

ナリエモ偏屈な意味文字者 M. Lanci (1779-

1857) が = と云ふ。 Celestino Schiaparelli  
<Amari 後繼者> (1841-1919)  
Amari はナリアの著書に立派なが、下

。 2 ) < ルニツエイ 教えの正時も、

人がナリア出身の学生をもつてゐる。

「ナリアも実を積みほどのものではないが、たゞ、  
高級のアーティレリエ工場を有する所

(原註: Amari は 1860 年から 1866 年(

定説的)は 1873 年まで) と記せば。 1862 年

から 1864 年まで新王国の文相としていた。 1

ナリエモ著書のアーティレリエ工場の高級工場を有する

はナリア最高の経済力である基礎なり。 これがナリ

ナリエモ著書のアーティレリエ工場の高級工場を有する

魔のアラビア語 = 3かで 13歳の時に「アラビア語」を学んだ。彼の唯一の直弟子はアントニオ・シエラレッリである。

Celestino Schiaparelli (1841 - 1919年) である。

~~Schiaparelli~~ は、アラビア語の言語学者である。

Schiaparelli は Amari の歴史書に注目し、アラビア語の古文書を研究する。彼の著書には、アラビア語の歴史書である「アラビア語の歴史」がある。この書籍は、アラビア語の歴史書として初めてのものである。また、アラビア語の歴史書として、アラビア語の歴史書として初めてのものである。

Amari の著書は、アラビア語の歴史書として初めてのものである。また、アラビア語の歴史書として初めてのものである。

" ては、その叢書の全面的な校訳を行なう。"

且つ未刊に於て、下記れども之を ~~宣訳~~ 翻訳と準  
備して。 ~~Amari~~<sup>翁</sup> Amari a Biblioteca ~~所~~ にて  
~~下~~ ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~ ~~本~~

（注）出でて之は は天子の御代（

は（12世紀）のウズキが生じて之は（Il

cantori di Ibn Hamdis, poeta arabo di Siracusa, testo  
arabo, Roma 1897）。 Ibn ~~Gubayn~~<sup>Jubayn</sup> (= 12世紀, 之  
を Rihla (Amari) 又はそのアラビア語

アラビアに關する重要な部分を利用して  
書かれども）のすぐれたイタリア語訳は Wright

のテキストに基いて行なつて之は。 = 9丁

（注）アラビア語訳はヨーロッパの言語へ  
且つ長い間唯一の訳である。最近には

ではこれが他の英語とフランス語の訳が之を

これと並んで（Ibn Gubayn, Viaggio in Spagna, Sicilia

, ecc. Prima Traduzione fatta sull'originale arabo. Roma 1906.

英訳は Broadhurst によれば 1953 年に、仏訳は

Graudefroy-Demombynes によれば 1950 年に出版された。

\* Bartolomeo Lagúmina (1850-1931)

三 4 " ハ の 司 稲 Bartolomeo Lagúmina (1850年-1931年)

は 実 閣 = Amari = フ サ エ レ ッ ボ 之 3 手 = 4

セ は な い = ( 2 t ) = 9 傳 大 な 3 同 領 人 が 5

序 閣 ( 上 ) 患 告 や い 二 ス ピ レ - シ ョ ニ エ リ 5

出 1 下 ヒ 11 3 音 味 2 " カ は Amari 梁 宗 仁 7

布 子 と 1 2 3 。 Lagúmina は Palermo a 国 文 国 書

館 に 在 る 東 洋 閣 係 の マ = ユ ス チ リ ポ ト ( = 9

ク ト 29 篇 カ ア テ ビ ア 語 ) 9 カ タ ロ ブ " エ < リ

Catalogo dei codici arabi della Biblioteca Nazionale di Palermo. =

9 は Cataloghi dei Codici Orientali di alcune Biblioteche d'Italia,

の 第 四 卷 ( 1889 ), Amari が 3 判 8 & Firenze 1889

3 1 2 , 3 9 3 T 2 最 多 価 值 有 の て の ( T = 8

内 容 の 1 は 全 < 三 4 " ハ の 閣 係 仁 11 8 ) 2 8

as-Sigis fānī  
as-Kitāb an-nākhīl 9 Kitāb an-nākhīl 8 1/2 出 版 仁 8

( 原註: Il «Kitāb an-nākhīl» o Libro della Palma di Abū Ḥātim

as-Sifistoni, Roma 1891. = 9 12 Memorie dei Lincei, ser. 4

の 第 八 卷 ( 1892 )。しか ( 徒 a 事 閣 仁 8 ) 2 8

ア ラ ブ ・ ミ ナ リ ア の 銀 大 8 古 鍵 8 2 8 2 8

, 3 9 研 宏 ( 1892 ) 9 Stude' sulla numismatica

arabo normanna, 1891 & Catalogo delle monete arabe nella

Biblioteca comunale di Palermo, 1892 年 (著者 Amanri) の アラビア語の書籍とその歴史 (原註: La fámina a 著者 Cozza-Luzi e a 編集者 Sicilo-saracena di Cambridge, Palermo 1890)

アラビア語の書籍とその歴史 (原註: La fámina a 著者 Cozza-Luzi e a 編集者 Sicilo-saracena di Cambridge, Palermo 1890)

アラビア語の書籍とその歴史 (原註: La fámina a 著者 Cozza-Luzi e a 編集者 Sicilo-saracena di Cambridge, Palermo 1890)

完全版 (Rivista Studi Orientali, IV p. 93 - p. 95)

に記載。彼はアラビア語解説者であるが、アラビア語の書籍とその歴史

はアラビア語の書籍とその歴史 (原註: La fámina a 著者 Cozza-Luzi e a 編集者 Sicilo-saracena di Cambridge, Palermo 1890)

アラビア語の書籍とその歴史 (著者 Mansala, Siracusa - Salaparuta,

Palermo, Sciacca 及び Linosa) が記載されている。

アラビア語の書籍とその歴史 (著者 Mansala, Siracusa - Salaparuta,

Palermo, Sciacca 及び Linosa) が記載されている。

アラビア語の書籍とその歴史 (著者 Mansala, Siracusa - Salaparuta,

pubblicati nel testo originale, tradotti e illustrati, I ~~書~~<sup>手</sup> ~~著~~<sup>者</sup>  
 の死の年は 1882 年 Palermo (1868-1882)。= a  
 110 レルモアアラビストでヨーロッパ古文書学者である  
 人物、~~その著明な~~ 同じ 110 レルモア自身の所  
 の著名な人物 Amanri とどうぞ関係にある  
 下が著者によるとある "Casa di Nellino" 文  
 1874 年に書かれたものである。自身は 1868 年  
 に死んだ。Nellino [Nellino - Storia dei  
 Musalmi di Sicilia 2<sup>nd</sup> ed. I, p. xxxii] Nellino 著者  
 の死の年は 1874 年である。Amanri が死んで  
 いる。Amanri は大著 Storia di Sicilia に於ける  
 全巻生れの下りて ~~著者~~ ~~著者~~。Amanri が方  
 は Storia の著者である。Casa の本題は «  
 『アラビアの著者』と述べて「ヨーロッパのアラビア  
 人の著者たちの歴史」である。Nellino は Casa の作者  
 の「アラビアの著者」である。Nellino は Casa の著者  
 の「アラビアの著者」である。

情

モニタントは下記の如きである。

モニタントは元の価値を及ぼす理由を減らす

ことである。即ち、立派の一に未完である

と「S=」、次に原文書の翻訳、解釈、分析が、当然Sであるべき所の下にヒト原文に忠実にの、ヒトの「S」である。更に日本語論

は、~~論文~~は日本語の文脈からS=と「S」である。

~~理由~~ Cusaは原文書で正確に譲り

される部分とS=の間に何とか補足され

なくてはならない部分；或いは車を推測しか

出来ない部分~~等~~等と何ら区別して「T」

(=これは「」) Cusaはオーバー=卷で説明する

と~~日本~~日本では「」が~~日本~~日本は「」が~~日本~~日本

し、~~古文書~~古文書専門、批評的註釈も見当た

ず。索引も非常に少い。だからS=の書籍

文集は、<sup>アマリ</sup> Amar; 白身=S>2も独立しての下

で、Nallino et Al Storia のオーバー準備し

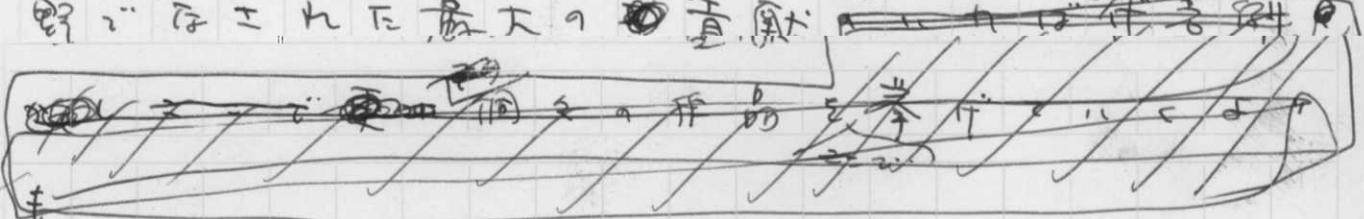
て「」用意に立ったし、その他ルマン・ニ

ケリア問題にトリックの人にも活用さ

れる(最初の文書はRuggeroの「」)

メモリヤー博士は間違ひに「アラビア語学者」とされ  
 た。読者から文書室著の「アラビア語序説」が  
 身には歴史家である。皆不満足だと思ふと確かである。  
 の作品は補足する所を要する。三つ三分冊本  
 は直ちに→「アラビア語序説」  
 リアル・サニエ著。1910年以後  
 «Centenario Amari» と題す。アラビア語の歴史  
 Amari が書いた手稿は入庫された。資料  
 と本末の関連は相違なく、下情熱は主として  
 は大きく、彼の死後アラブ・ミナリアに關する  
 諸研究は多くある。しかし、著者としての下  
 はビーチ、等。これは又一につきの好いアラ  
 ビア内外と通じて高度に「歴史的」の関心(これが  
 もうAmariは三千のアラビア語を採集したの  
 で、これが)その他アラビア語の歴史を下  
 せることもある。アラブ・ミナリア研究へ  
 へ一つの刺激が、創設者の生誕百年祭(1806-  
 1906)に於ける手記され、この記念の新しく  
 資料を下された研究が残る。この百年  
 祝賀会は1906年1月20日開催された。ヒューカー宮殿上

は Nallino の行進 ~~による~~ > 2 本表 T の 2<sup>回</sup>  
 あるが、~~Centenario Amari~~ ~~1910年~~  
 と ~~論文集~~ <sup>1910年</sup> ~~論文集~~ 部屋。  
 論文集 <sup>1910年</sup> はアラゴン、ナウア  
 の言語学的・歴史的論文その他、中世の原作者  
 「アレグリエーリ」等のアラゴン、ナウアの研究、  
 イタリア諸国と近東の間の關係に關する論  
 文書等を含む。Amari は ~~著者~~ に ~~著者~~ が分  
 けられ、これは大の ~~著者~~ 研究室 ~~著者~~ である。



それから論文 = 2<sup>回</sup> 回を 12 章に分けて  
 1 本、1910 年以降は = 2<sup>回</sup> 分野を分けて九つの研究  
 室 (1910 年以降は 12 章) で数多くは  
 が ) を検討し、それが 3 つあると言及 (E. と思ふ  
 が)。但し、~~論文~~ 研究論文、完全な  
 行進 <sup>が</sup> は、最も重要な意味深く、それは 2<sup>回</sup> に  
 て 2 本ある。とと思ふ。  
 Centenario Amari は <sup>著者</sup> 歴史的・地理学的研究

{原註: 315512 = 4129 法序名連 955 古著者 - 人 al-maqāfi  
 1=2112 M. Asin Palacios o Un fāzīh siciliano, contradictor  
 de al-Grāzālī. in Centenario Amari II 216-281  
 23回 (21)

ナスル、又ヒリカケ壹著屋の { 疑かず七等  
 三ナリア ~~出身~~ a 2-1 キ - 38 a 法序名連の }

伝記 2 t > Biblioteca Arabo-Sicula の 神足セル

a か Moh. Ben Cheneb ( Abū al-'Arab & u. al-Khushān )

?abagāt = フ' ) (原註: Centenario Amari I. 241-296)

2 疑。 E. Griffini ( ナ - フ' - 'Iyād o Tarkīb  
 al-madāriks ナ 109 = ナスルの紹介 = フ' )

(原註: Ibid. I, 364-448) 2 疑。 E. Fagnan ('Abdallāh

al-Mahdi) 2 伝記 a 説 a 他に。 ~~著者不明~~

直接 34 プリマニヤルタの 2 は 17 2 疑

Magrīzī a Mugaffa' = フ' ) (原註: Ibid. II. 35-114) 2 疑。 更 1=12

H. H. 'Abd al-Wahhāb ( Ibn al-Khatīb o A'māl al-a'lām

a 2 ナ及 34 ナスル 1= 関 3 部分 = フ'

2. = 9 10 ~~著者不明~~ 3 4 全 2 神足分の 3 5  
 2 疑 7 重要な新 1= ナスル 2 疑。 3 1 2

ナスル < 历史序分のナスル 2 疑 ) (原註: Ibid.,

II, 427-494) 2 疑 3. Amar: 1= フ' 2 疑 3  
 2 疑 3 4 全 2 神足分のナスル 2 疑 7 9 判

・ 34 ナスル 1= 関 3 部分 9 10 の 1= 接証 7 9 判

用ナスル 2 疑 3 4 全 2 神足分のナスル 2 疑 7 9 判

3/2 ~~著者不明~~ = ナスルが出版され、再版された

再版ナスル 神足ナスル

訳文

スムニは、例えは「後」も重要なものだ。

「後」か「夢」かなどと云ふは、アグリーブは必ず

~~アグリーブ~~ <sup>アグリーブ</sup> Ibn Idhārī の Bayān (Nuova edizione a cura di G. S. Colin e E. Lévi-Provençal, I-II, Leiden 1948-1951),

アラビア語。アラビア語で本題はアラビア語

al-Nuwairī と Niḥāya (原註: Testo arabo e traduzione spagnola a cura di M. Graspar Remírio, Granada 1917-19.)

或いは又 Ibn Hawqal と Ibn Jubayr 地理序言や添  
註記 (原註: Ibn Hawqal <sup>アグリーブ</sup> Bibliotheca Geographorum Arabicorum II, a cura di M. J. De Goeje 2<sup>nd</sup> ediz. a cura di J. Kramers, Leiden 1938); Ibn Jubayr <sup>アグリーブ</sup> Gribb Memorial Series, V, 1909, col testo del Wright riveduto dallo stesso De Goeje.) などある。しかし = ある

新しく補正された方を取る。既に述べた = ある

とく; Amanī と偉大なる Storia はこの點に手

を加えて是れが「生ずる」べきであることを示す。す

べて Storia は <sup>アグリーブ</sup> その他の如きのアグリーブと地理学上

関係 = ある。つまり大著が書かれた。

「前」か「1800年」か <sup>アグリーブ</sup> などと云ふは、M. J. Vasiliiev

a Vizantij; Arabi (1900年) <sup>アグリーブ</sup>, = ある

1935年に改訂増補>ラ・スコラ法の出でる。

34かし J. Gray a Italie méridionale et l'Empire byzantin (1904). 及び F. Chalandon a Histoire de la domination normande en Italie et en Sicile (1907) が

34かしの3。 Vasiliev a l'Époque des empereurs d'Amari a

Storia の基本から典型的のさざなうへたる。

Gray & Chalandon は大いに利用され且つ  
後者を主として (Gray a 中世初期の南イタリアの歴史)

2. 了解。 Chalandon はエーテリルマニ王國

史) ~~は~~ a 領域の下に = 人間の = 漢字 = 九二の字。 しかし、 ~~は~~ また (C. ニコラウスは論著の「アラブ人の歴史」に記載) は、 ~~は~~ 仲子の下 = その出来事の本質

成り立つべきである。 Vasiliev は C. T. =

32、三千の征服、諸問題へと Amari

と論争する機会を持つていた。三千の

アラブは於てアラブとセザンヌの開拓の全貌

を把握するためには Amari a Storia e Biblioteca

は必ずしも得たが、Canard

12 39  
 12 <<アラビア語資料集>> 3編までに西暦 2  
 Amari の Biblioteca に基づく ~~アラビア語~~ の 2~3 章  
 = 9 <<アラビア語資料集>> 3, 3 の 12 章  
 はの作の開拓と、アラビア語版は 3 章まで  
 (= A) “Era 9 で 3 (原註: A. V. Vasiliev, Byzance et  
 les Arabes, édition française préparée par H. Grégoire  
 et M. Canard, I (La dynastie d'Amarium), II. & La  
 dynastie macedonienne) Bruxelles 1935-1950.

三千年アラビア語の歴史 (ビザンツとアラブの関係  
 1. 開拓と阿達ルイ二世の他: J. B. Bury; The naval  
 policy of the Roman Empire in relation to the Western Provinces  
 from the 7th to 9th century. (Centenario Amari, II. 2f.)

34) 参照。) 0) アラブ・エジプトの文章。アラブ  
 では、Amari の先駆的な業績が Schiaparelli;  
 3. Ibn Hamdis 著集の序文の記載を詳説  
 校訂をなした下記は、27 年。= の  
 Schiaparelli は A. その他 A. 皇詔の他、  
 7. 三千年アラビア語の歴史 (ビザンツとアラブの関係  
 校訂と準備 (VII), 二つとも未刊は終る。  
 アラブ・エジプトの文章。アラブ著集は、

Centenario Almanzor Moritz いざなむて(=  
 フルストエーフエーハエト) Ibn Sa'ad o Mughrabi =  
 44ア詩集に含まれる(原註: Ibn Sa'ads Be-  
 schreibung von Sizilien, Centenario Almanzor, I. 292-305.)。  
 = Eh (ア Biblioteca 大部分 al-Ifshāfiya ~~アラビア~~ が  
 成立するまでに。+ = 世纪の初頭に著名な  
 = 44ア詩序書に記されたアラビア語  
 ・ 44ア詩人達の大アニコロジーには  
 Ibn al-Qattā' が ~~著者~~ 失われた(?)  
 E. Durna, ~~アラビア語~~ は、アラビア語で書かれた  
 イタリア語翻訳本の Dunra 他の翻訳本  
 = 今はアーティス朝の下につかれていた大  
 著者 Ibn as-Sairafi (+1147) に ~~著者~~ 213 が  
 ) が、I. D. Matteo によると 2 = 4アニコロ  
 ヨスケーリートはモーグル ~~アラビア語~~ が  
 213 (I. D. Matteo, Antologia di poeti' arabi siciliani,  
 estratta da quella di Ibn al-Qattā'; Archivio Storico per  
 la Sicilia, I (1935), 85-133.)。アラビア語の  
 3世紀アラビア詩集として最も古く、アラビア語  
 著者 18世紀アラビア詩集として最も古く、アラビア語

L'Antologia di Ibn as-Sairaf sui poeti arabo-siciliani:

Bulletino del Centro di studi filologici e linguistici

siciliani II, Palermo 1954, 39-51. )。 ~~レーベン~~

著《詩人》 = 4 リアビト連 ⇒ 又著《詩人》 12 < 傳

大字 = 4 リアビト連 ⇒ 12 間 33 ⇒ 1 - 2 イbn

Hamdis a 7° パラ - il è 伝て (F. Gabrieli; Ibn

Hamdis, Mazara 1948; 又 F. Gabrieli; Arabi di Sicilia e Arabi  
di Spagna, al-Andalus XV (1950), 27-46, 又 F. Gabrieli;

Sicilia e Spagna nella vita e nella poesia di Ibn Hamdis,

Miscellanea Galbisi, Milano 1951, III, 323-333 = 9 章

と = 著 (1) Dalmundo dell'Islam, Napoli 1954. の中で章 8

八章 に 題名 = 4 リアビト連

(アラブ・シキナアラビア語) アラビア詩全集 古典的詩法及

古詩的詩法 (F. 3. たかひら 2. あくしゆう) に 知る

形 muwashshaha と いふ zaja/ あはす 互文形

た ( = わかアラビア配下の三通り) に 通じる

言葉 が なんばれ 熊 あつて か い 間

と 支持 え放げかけ て < あはすの て あはす い あはす

は 今 と = 3 期待 て き て お 3 て お 3 。

の語と言葉は明らかにアラビア語のモチーフ  
から近いイタリーキヤーのそれによく似たタイ  
で本 ~~は~~  
~~33 = ヒガ~~ 種類があるのか... ~~は~~  
 ともあれ 3 ~~は~~  
~~の解説~~ が現存するもので  
 さてそれは、13人の名前や地名に於ける  
 若干の手がかりと、  
~~諸種の~~ 國語文書七八とア  
 ラビア語への翻訳の跡、  
 である。最も多くは表記が  
 あるが、地域の知識人の手書きと  
 下廻りのものと、しばしば  
~~は~~ ~~必要な言語~~  
~~従つてそれが~~ 言語、歴史の準備を欠き、  
 全く或いは殆んど ~~無~~ が出来ない不  
 可能である。だからアラブ・エジプト方言  
 に関する膨大な文献 (Storiaの未部分)  
 Amari 自身はこれを証明する  
 批判的節にかけたならば、次のようす  
 個人だけの数少ない作品のみ残るだけである。  
 即ち、イタリア語学者 G. De Gregorio が Ch.  
 Seybold と A. Tafani が 1903 年に表わした Glossario  
 delle voci siciliane di origine araba (原 Studi Glottologici It.  
 LIFE C 151 言語 20 × 20

aliani, III, 225-251 ), 21 = 1910 (34) in P. Gabriele

(< 言語源の辞書 > p. 12)

Maria d'Aleppo e G. M. Calvaruso の出處 T. Fonti

arabiche nel dialetto siciliano, 前著 = 著者と本

日本が重要な、 = 9 分野で 12 種類重要な本

著者と本 Rohlfs と Wagner (Rohlfs と本)

in Zeitschrift für romanische Philologie XLVI (1927), 147-152,

Wagner と Byzantinisch-Neugriechisches Jahrbuch VII (1931),

204-213, 及び Zeitschrift für romanische Philologie LII (1933)

641-670) や, と A. Steiger と Contribución

a la fonética del hispano-arabe y de los arabismos en el  
ibero-románico y el siciliano (1932) と本。 = 9

最後に、と本は 1900 年代に於ける言語学 = 講義

と本 = 1900 年代に於ける言語学 = 講義

の貢献 = 本。 (美術)

以上 98 頁

アラブ・ラテン語の書籍文庫や古書店が如何

in Legumina と本 = 1900 年代に於ける言語学 = 講義

とか、これは充分心配 = 1900 年代に於ける言語学 = 講義

(本 = 1900 年代に於ける言語学 = 講義)

アラブ・ラテン語の書籍文庫や古書店が如何

( プラス : 三 411 ) 奈良時代の書簡 ( 1 )  
 ( ムスリム : I. Paris, 1926 ) < la Sicile musulmane et normande >  
 ( Gr. Margain )

## 所 事 例 二 つ 。 Répertoire chronologique

d'Epigraphie arabe, vol. II ( 1926 ) 以下を参照。 34

39 例、正に手本 C. A. Nallino, Di alcune epigrafi sepolcrali  
arabe trovate nell'Italia meridionale, Miscellanea Salinas,  
Palermo 1907, 243-253, 417-420 (= 第 245 号) ,

所 事 例 の 分類 12. = ル・ル・タニト 墓の通俗的  
性とその地名、細心の注意と共に詳細な解  
説が若干ある。 343 日 ( 12 月 ) 唐古屋若の「  
詩歌」全集。

1797 年歴史家 U. Monneret de Villard (= 1907)  
種子島で発見され、彼はとくに之を「彼は即ち島内  
の準備も 12 月の間のものにして。  
他の学者達が、鑑定した、「これは伝統的  
に三四年のアラビア藝術」 (= 12-13 世紀)  
と云ふが、それは誤りである。 例えば Kühnel (

Sizilien und die islamische Elfenbeinmalerei, Zeitschrift für  
bildende Kunst, XLIX ( 1915 ) ) が Cott ( Siculo-Arabic  
Ivories, Princeton 1939 ) によると、三四年の割  
合で、10~11 世紀に於ける最も有名な  
所 事 例 は吟味の上では 1=5 位、 3 丸の小箱

は下実はエミリオ・モナレット・ド・ビラードのものである  
と考へられる事が多い

(30)

は下実はエミリオ・モナレット・ド・ビラードのものである  
と考へられる事が多い  
（U. Monneret de Villard; La cassetta  
incrostata della Palatina, Roma 1938），或いは「12世

La tessitura palermitana sotto i Normanni e i suoi  
rapporti con l'arte bizantina (Miscellanea Accademia  
Mercati III, Città del Vaticano 1986. pp. 46-89) など

輸入の12世紀、11世紀モロッコ有りたる事とされ  
「下緋物の宣詔」、「2、3のアラビア書道」

「モナレットの絵画」、「モナレットの絵画」

ラ・ル・1°ラ・4-ナの天井画 ~~アーティスト~~ とアーティスト

脚子、魔匠、~~アーティスト~~ Monneret が、紳士生  
活のサイクル、つまり紳士の日常生活 ~~アーティスト~~  
~~アーティスト~~ と呼んで「アーティストに他ならぬ」。従つて若者  
のこのサイクルとは、カッペラ・ル・1°ラ・4-  
ナの天井画 ~~アーティスト~~ ) はじめて高台且つ正  
~~アーティスト~~ 复刻し、批評的分析し、  
価値を“アーティスト”とす。

○ ~~アーティスト~~ 将来への展望  
十二二十二年予定は絶え。重要な是處

として云ふが、十二二十二年予定は絶え。何

時にも又重要な是處 ~~アーティスト~~ は、この十二二十二年予定は絶え。

✓ ~~アーティスト~~ (この) が、十二二十二年予定は絶え。十二二十二年予定は絶え。  
この予定は無理 ~~アーティスト~~ と云ふ。十二二十二年予定は絶え。

さて次に研究から現在準備中の研究室には

アラビ・ミナリア研究の ~~アーティスト~~ 将来のアーティスト

に望ましいと思われる研究室は、月三軒以上ある。

3. ~~アーティスト~~ 何よりも立派で、エジプトで始められた

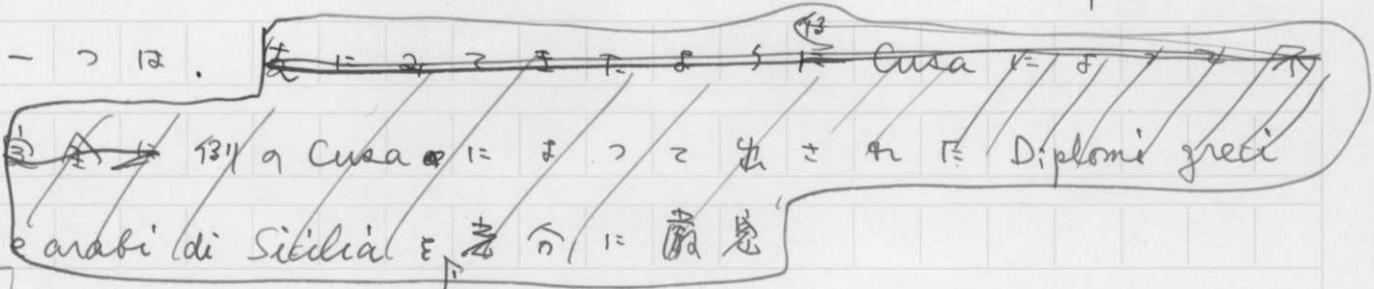
Amara Storia のアラビア語訳 <sup>アラビア語訳</sup> 巻が本はなく、必ず

。この企ては、それが実際的に必要であり

便宜か、立派な本の代りに書かれていた、立派な本

ニュートンは史上の大作の伝記には「凡ての歴史  
 の価値を証明するためである」とある。又エジプト  
 ではイタリヤ人学者 U. Rizzitano が一部刊行され  
 る他の部は未だユスクリードトーマスの資料に  
 基づいて、Biblioteca や今までは引出された他の  
 集いはその一部が今更に再版されたりする。アラブ・ニナリア語による集成と準備  
 113(アラブ・ニナリア語による)の新し“資料”は Rizzitano が収入した  
 本間の上 = 315(+) Durna の新しく  
 残遺はまだある。即ち  
 Ibn as-Sairafi はまだ生きて、細々として  
 た残遺は別として、主として as-Silfi と Mu'jam  
 as-Safar, at-Tugib と註釈付きの khālidīyān と Mukhtār  
 min shīr Bashshār によるとそのことはない。  
 ニナリアの最も著名なアラビア語詩人 Ibn Hamdīs  
 と al-Ballānūbī はこのことは、我々は段々 Schiaparelli  
 が従事とりくんでいたが、これが期待されべきである。  
 研究成果の出版はこれからべきである。  
 しかしアラブ・ニナリア言語学の真に申

心的な課題は、昔（それが ~~死~~ 今まで）より多くの  
多くに強力な力となり有力な手段となるべき時  
には、主として次の => ある。即ちその



Cusa = どう不完全な解説とほこされた 13世紀文書集と。  
西窓の翻訳、部分的註釈を加え、出来れば今かの要旨に  
そとに再検証して、直 = 価値あることはあり、他の

→ Al-Idrisi, Libro di Ruggero の ~~翻訳~~ <sup>翻訳</sup> <sub>改訂</sub>、  
且つ ~~訳~~ <sup>訳</sup> とて ①

八世紀前に 110 レモの王座 <sup>ヨハニス</sup> に生まれた  
レガーリウム

中世イスラムの空間と宣大はルマニの保護との並行性を示す

① 周知の ~~訳~~ <sup>と</sup> ~~訳~~ al-Idrisi については、未だこの  
テキストの全体においては改訂は行なわれてい  
ない。但し ~~全訳~~ <sup>Jaubert</sup> の全訳がある (Paris,  
1836-40)。これは時代遅れて、久遠である。

ラグジーノ

アーヴィング・ルッジェロは、Ruggero = ものを購入する  
年も税金を支出し、それを<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>  
アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>  
アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>

アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>

アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>

アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>

アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>

アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>

アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>

アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>

アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>

アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>

アーヴィング・ルッジェロは、<sup>契約と会計</sup><sup>執行了</sup><sup>計画</sup>

偉大な仕事と伝へ受けた=七九年来天下一丸了  
 の停下來て研究家達の連絡へと近頃は「ア'  
 ニ、~~アーネスト~~故矣と、我之所思~~アーネスト~~終乎。身る  
 そ接觸否と云ふ=七九墨塵の意と擇け。」  
 (00/12/..)

(終) )